

「攻める力」 「守る力」の重要なポイントは

攻める力

守る力

①	収益性 総資本経常利益率 分析値 1.6 % 60 点	⑥	資金性 総資本回転日数 分析値 137.4 日 100 点
②	収益性 付加価値率 分析値 38.8 % 80 点	⑦	安定性 経営安全率 分析値 1.7 % 60 点
③	生産性 労働分配率 分析値 66.4 % 30 点	⑧	安定性 債務償還可能年数 分析値 17.3 年 50 点
④	生産性 固定資産投資効率 分析値 180.3 % 70 点	⑨	健全性 自己資本比率 分析値 21.7 % 60 点
⑤	成長性 経常利益増加率 分析値 -61.8 % 30 点	⑩	健全性 固定長期適合率 分析値 70.6 % 70 点

主なポイントの現状は

● 攻める力 上記の分析値・得点の現状課題です。

付加価値率（顧客満足度の価値）

売上とそれをあげるのに直接かかった仕入や外注費との割合は極めて良好で、会社発展のために必要な粗利は十分得られている。

労働分配率（人件費と稼ぎ高のバランス）

会社が稼ぎ出した儲けに対し、社員等に対する人件費への配分がやや高く、人件費のウェイトが高くなっている。

経常利益増加率（経営成果の伸び）

前年に比べて経営活動に対する取り組み効果があまりなく、稼ぎ（利益）の伸びもある程度にとどまっている。

● 守る力 上記の分析値・得点の現状課題です。

総資本回転日数（投下資本の売上貢献度）

経営活動として使われたお金を売上として回収するまでの日数は極めて短く、効率よく資金を活用している。

経営安全率（経営環境への対応力）

赤字に転落するまでの売上高の余裕度をかなり持ち得ており、ある程度余力を持った経営を遂行している。時代性を考えていく。

自己資本比率（企業生命力の強度）

会社が動かしている資金のうち、返済不要な純資産の部にある金額の割合はやや高く、安全な領域に入ってきている。